市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	大宜味村観光情報発信整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 島々の資源・魅力を活かし、存在力を引き出す産業振興
担当部課名	企画観光課	事業実施（予定）年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	観光資源（文化財、自然資源、特産品、体験事業）などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり実行委員会及び大宜味村PRイベント実行委員会の実施活動を支援する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5, 000	7, 000	10, 350	12, 300	8, 193
	(b) 予算現額	390	1, 223	11, 250	5, 761	6, 793
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,610	▲ 5,777	900	▲ 6,539	▲ 1,400
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	390	1,223	11,250	5,761	6,793
B. 執行済額		390	1223	5854	2,314	4,439
うち交付金充当額		312	978	4683	1,851	3,551
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率 （%） (B/A)		100.0%	100.0%	52.0%	40.2%	65.3%

予算の状況の説明

・実行委員会からの事業計画に基づき補助金を交付。実績報告書の内容を精査し、事業が完了していることを確認した。
・他のイベント行事との兼ね合い等を勘案して実施体制や予算の見直しを図ったことにより、当初の見込よりも予算の執行率が低下した。
・産業まつりについて当初予定通り予算の執行を行うことができた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
PRイベント開催支援	目　標	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）
	実　績	実施	実施	実施	実施
産業まつり誘客イベント開催支援	目　標	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）
	実　績	中止	実施	実施	実施
PRキャラクター着ぐるみを制作し活用	目　標	（　－　）	（　－　）	（　－　）	（　制作・活用　）
	実　績	－	－	－	未実施

達成状況説明

・PRイベント実施費用を支援
①令和6年10月12日～13日　かにえ町民まつり　約18,000人。
②令和6年10月20日～20日　いしのまき大漁まつり　約52,000人。
③令和6年10月25日～27日　沖縄の産業まつり　約268,800人。
④令和6年11月2日～3日　西会津ふるさとまつり　約3,900人。
⑤令和6年11月2日～3日　鶴見ウチナー祭　約65,000人
・産業まつり：令和7年1月25日、26日（2日間）に開催。誘客増のために、ステージイベントでお笑い芸人や猿まわしなどを実施。イベントを行うための会場設営費を支援した。
・PRキャラクター着ぐるみ製作・活用：既存着ぐるみのウレタン・ボア素材ではなくエアー着ぐるみでの制作を検討し調整したが、形状的にエアー着ぐるみが不適であることが発覚し、製作期間の兼ね合いから発注まで至らなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
各実施イベント来場者数	目　標	（　　）	（　11,000人　）	（　11,000人　）	（　11,000人　）	（　　）
	実　績		約367,000人	約481,000人	約407,700人	
大宜味村産業まつり来場者数	目　標	（　　）	（　5,000人　）	（　5,000人　）	（　5,000人　）	（　　）
	実　績		4,600人	4,761人	4,326人	

進捗状況説明

（PRイベント）
PRイベントを4都市の会場で開催し、約481,000人の来場者が訪れた中で観光や特産品等のPRが実施できた。

（産業まつり）
今年度は他イベントとの重複を考慮し例年より1週遅く開催したが、目標を達成することはできなかった。
まつりの内容として、村と友好交流のある宮城県石巻市、秋田県湯沢市観光物産協会、福島県西会津町、愛知県蟹江町を招いてテナントブースにて特産品及び物品販売を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（PRイベント） 継続的な観光及び特産品のPRに取り組むことで、リピーターも着実に増えており、大宜味村の観光物産のPRをSNSを通して発信してもらうなどの協力も得られた。しかし、各イベントとの開催重複や連続性に伴う、運営体制の人員確保が引き続き課題となっている。 （産業まつり） 今年度は11月に沖縄県北部豪雨災害があったため例年より準備が遅れる事態となったが、例年並みにイベントを実施することができた。また他イベントとの重複を考慮し例年より1週遅く開催したが、来場者数は昨年より減少したため目標を達成することができなかった。	（PRイベント） ・安定的なPRイベントを実施できるよう、来場者に対して、より効果的なPR方法及び運営体制の検証を継続する。 ・大宜味村の観光及び特産品を取扱う事業者との連携体制を構築し、継続的な取り組みを行う必要がある。 （産業まつり） ・広報活動や周知の更なる強化を行う。 ・開催日を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

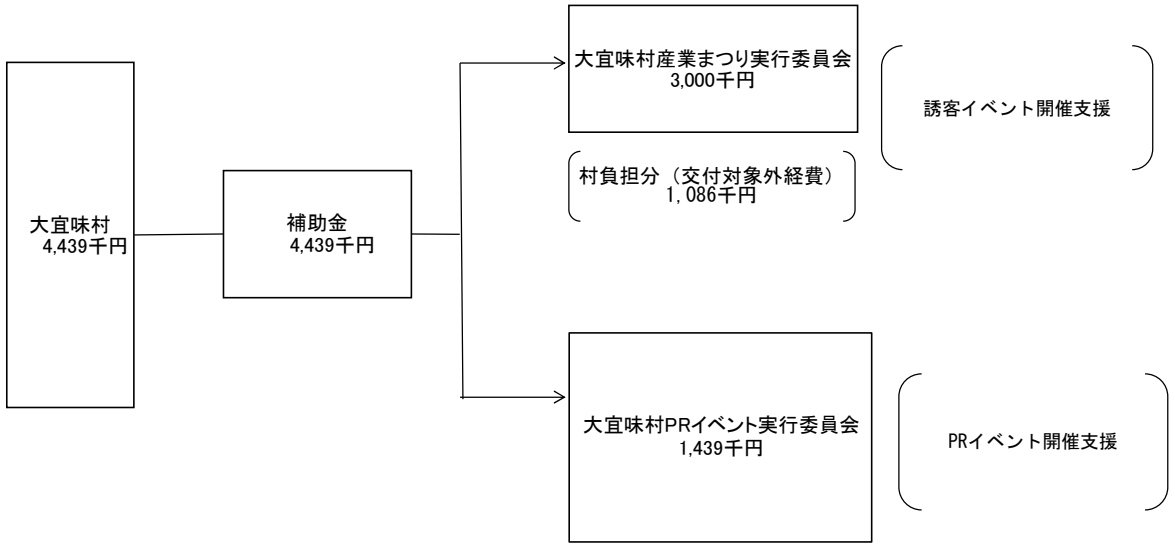
（PRイベント）
・大宜味村の魅力を県内外にPRするための観光や特産品紹介のコンテンツを強化すること等を検討し、関連する事業者等との連携も継続的に取組む。
・イベント開催場所の情報を収集し、より効果的なPRを実施できるよう検討する。

（産業まつり）
・周知期間を長くするためプログラムを早めに決定し、チラシ作成の発注を早い段階で行う。
・老若男女が楽しめるイベントを開催する。

（PRキャラクター着ぐるみ製作・活用）
・製作計画の段階で複数の業者から聞取りを行いながら、最適な工程での製作ができるように計画を策定する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,525	4,439	3,551	888	1,086



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は本村の産業まつり実行委員会及びPRイベント実行委員会として観光・特産品PR等を振興する役割を担っているため、妥当と考えている。 ○各実行委員会で費用対効果に考慮した予算措置に努めていることから、適正な規模と判断している。 ○費目・使途についても実行委員会からの実績報告書を精査し、目的に即し必要なものであったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	環境保全・美化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(2)－ア 自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用
担当部課名	建設環境課	事業実施（予定）年度	平成28年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による捕獲器の設置、回収を行い、貴重な野生生物の保護及び地域住民や観光客の安全確保を図る。また、猫の適正飼育の周知や、譲渡強化等を図る。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,741	9,082	9,416	10,469	11,135
	(b) 予算現額	10,504	9,082	8,631	10,728	11,860
	(c) 増減額 (b−a)	2,763	0	▲ 785	259	725
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	10,504	9,082	8,631	10,728	11,860
B. 執行済額		10,182	8,347	7,760	8,288	10,043
うち交付金充当額		8,145	6,677	6,208	6,631	8,034
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		96.9%	91.9%	89.9%	77.3%	84.7%

予算の状況の説明：令和6年度の執行率は84.7%となった主な要因は、対象ネコの減少に伴う手術費用の縮減である。
また、野良猫の減少で捕獲数が減少した。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
賃金作業職員（2人） ※賃金調査職員（2人） ▸※はR3年度まで	目　標	（4人）	（2人）	（2人）	（2人）
	実　績	4人	2人	2人	2人
各保護・捕獲器の設置（ハブ、犬、猫）	目　標	（ハブ30台 犬3台 猫10台）	（ハブ40台 犬3台 猫10台）	（ハブ40台 犬3台 猫10台）	（ハブ40台 犬3台 猫10台）
	実　績	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台
猫の譲渡の実施 マイクロチップ装着	目　標	（実施）	（実施）	（実施）	（実施）
	実　績	実施	実施	実施	実施

達成状況説明：
・会計年度任用職員を2人配置し、ハブ罠40台、犬罠3台、猫罠10台の設置を行い、ハブ27匹の捕獲、犬1頭、猫59匹保護した。
・観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、ハブ捕獲器の設置し、野良犬・野良猫が多い地域へ犬・猫保護器を設置したことにより、ハブの捕獲、犬・猫の保護を実施することができた。
・村が保護し譲渡する猫に対して、避妊・去勢等を目標どおり実施した。
・村内譲渡ネコはすべてマイクロチップ装着し、村外への譲渡ネコにについては希望者へマイクロチップ装着を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
①ハブ咬傷被害：0件	目　標	（）	（0件）	（0件）	（0件）	（）
	実　績		（0件）	0件	0件	
②ヤンバルクイナの生息率：33.3%以上	目　標	（）	（23.08%以上）	（33.3%以上）	（33.3%以上）	（）
	実　績		28.20%	43.6%	59.0%	
③保護した猫の譲渡：100件以上	目　標	（）	（150件以上）	（100件以上）	（100件以上）	（）
	実　績		73件	59件	38件	

進捗状況説明：
・ハブ咬傷被害は0件で目標達成となった。
・ヤンバルクイナ生息率については、59.0%となった。
・ネコの譲渡件数については、愛護団体との連携及び地域住民への周知活動を行い38件となった。
昨年度と比較して減少しているが、捕獲対象個体の減少が大きな要因となっており、良い傾向であると考える。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ハブ咬傷被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている場所へハブ捕獲器を設置し咬傷被害0件を達成しているが、継続的な注意喚起が必要であると考える。 ・ヤンバルクイナの生息率については、近年高い数値を維持しており事業効果を実感している。しかし、野良ネコの目撃情報も一定数あることから、引き続き保護及び室内飼養の徹底が必要である。 ・ネコの譲渡について、愛護団体等と連携し定期譲渡会を開催した事により、スムーズな譲渡活動が可能となった。昨年度と比較して譲渡件数が減少し、未達成となっているが、捕獲対象個体の減少が主な要因であり、良い傾向であると考える。また、不適正飼育の実態もあることから、継続した指導が必要である。	・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う。 ・ヤンバルクイナの生息率について、野良猫の数の縮減に努める。 ・ネコの譲渡に関して、村内外のみならず、県外や他団体との連携を図り譲渡強化する。 ・猫の飼い主に対して定期訪問を実施し、適正飼育の徹底を促す。

今後の取り組み方針

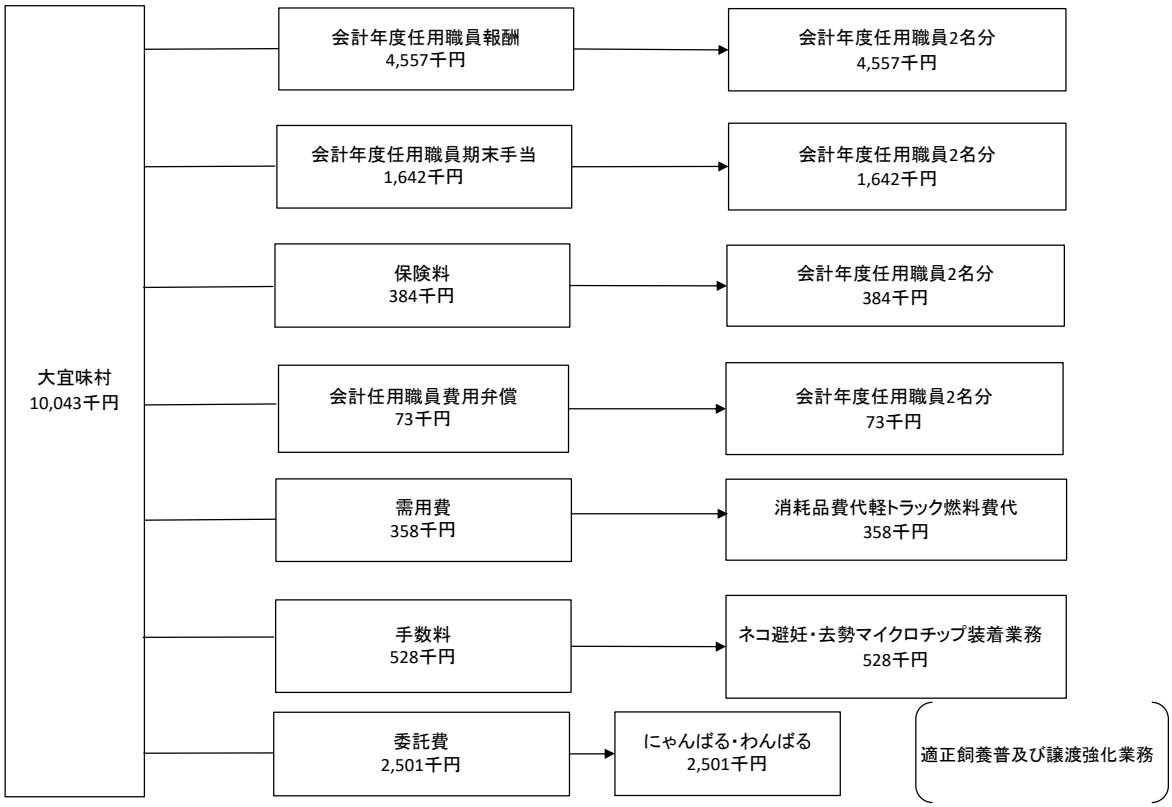
・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う。

・ネコの適正飼育の推進及び、野生化したネコの保護、避妊去勢を実施する。

・ネコの譲渡に関して、譲渡会の定期開催を行うと共に、村内・村外及び県外への譲渡を強化していく。さらに、適正飼育の徹底を継続して促す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,043	10,043	8,034	2,009	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○任用職員は、村の規則に準じ採用した。委託業務は随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、対象ネコの減少に伴う手術費用の縮減があり、84.7%の執行率となったが、個体数が増加に転じないよう維持する必要があることから事業規模は適正である。 ○費目・使途については、事業実施に必要不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	ふるさと河川環境再生・活用整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(2)－(イ) 自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用
担当部課名	建設環境課	事業実施（予定）年度	平成26年度～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

大宜味村謝名城・喜如嘉地区の魅力あるむらづくりとリンクさせた地域の活性化を図るため、河川敷の空間を環境教育の場及び観光誘客として有効活用すると共に、治水安全度の向上や河川全体の自然環境再生を視野に大川川とその周辺整備を実施するを図るため、大川川とその周辺整備を行う。

効果発現年度　■当年度　■後年度（令和10年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	184,013	205,735	－	63,000	62,381
	(b) 予算現額	184,013	205,735	－	48,000	58,541
	(c) 増減額 (b-a)	－	0	0	▲ 15,000	▲ 3,840
	(d) 繰越額	－	0	127,988	0	
	A. 計 (b+d)	184,013	205,735	127,988	48,000	58,541
	B. 執行済額	184,013	77,746	125,861	44,159	58,540
	うち交付金充当額	－	62,196	100,688	35,326	46,832
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）(B/A)		100.0%	37.8%	98.3%	92.0%	100.0%

予算の状況の説明：入札残（3,840千円）については変更により減額を行ったが、計画どおりに河川護岸を整備し、予算を執行することができた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
護岸整備工事の実施　L＝39.7m	目　標	（R4年度へ繰越）	（　）	（護岸整備工事 L＝41m）	（護岸整備工事 L＝39.7m）
	実　績	R4年度へ繰越		護岸整備工事 L=49.7m	護岸整備工事 L=39.7m
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：当初予定どおりに計画護岸を整備した。執行率は入札残によるもの。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
累計河川工事整備率　85% (2,198m/全体延長2,600m)	目　標	（　）	（　）	（工事整備率 81%）	（工事整備率 85%）	（　）
	実　績			工事整備率　81%	工事整備率　85%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初予定整備箇所の護岸整備工事を年度内に完了することができた。

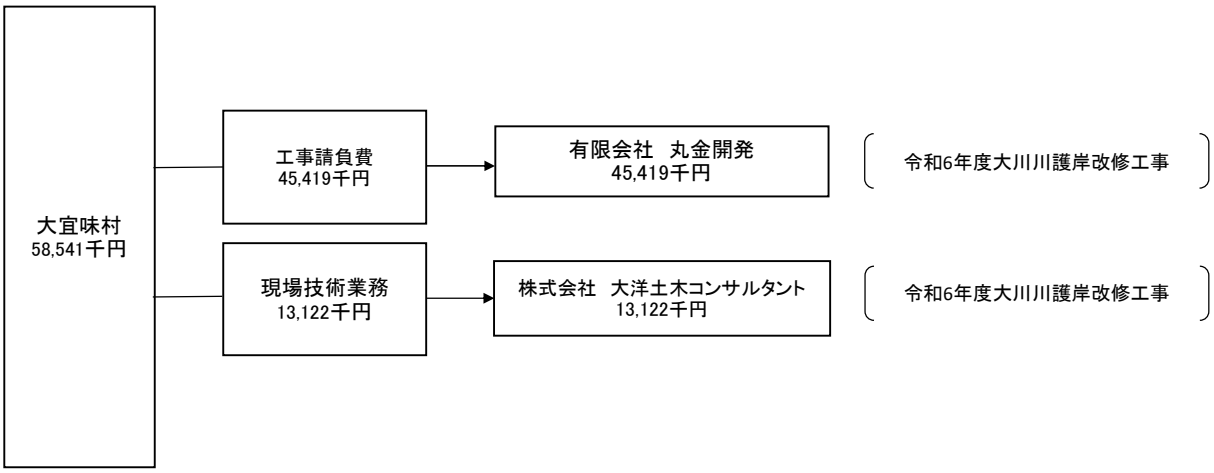
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（累計河川工事整備率） 当初予定どおりに計画護岸を整備し、累計河川工事整備率85%となった。 しかし、工事中の11月に県北部各所に災害を発生させた令和6年沖縄県北部豪雨があり、工事箇所に影響がでないよう対策に苦慮した。	（累計河川工事整備率） ・近年の自然環境の変化、災害の激甚化を踏まえ、気象状況を十分確認し、災害を未然に防止及び軽減できるよう対策を講ずる。

今後の取り組み方針

（累計河川工事整備率）
・引き続き、観光誘客や観光教育の場としての活用を図るため、大川川の整備を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
58,540	58,540	46,832	11,708	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は指名競争入札で決定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、設計の見直し等があったが適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア 「生きる力」を育む学校教育の充実
担当部課名	教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学力の向上を図るため、村内小中学校に学習支援員を配置する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,878	13,045	13,775	13,934	15,294
	(b) 予算現額	11,878	13,045	13,775	11,451	16,740
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 2,483	1,446
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	11,878	13,045	13,775	11,451	16,740
	B. 執行済額	11,404	12,479	13,191	11,731	16,065
	うち交付金充当額	9,123	9,983	10,553	9,384	12,852
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		96.0%	95.7%	95.8%	102.4%	96.0%

予算の状況の説明：年度をとおして人員を確保し事業を実施する事ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校3名配置	目　標	（1小学校×3人）	（1小学校×3人）	（1小学校×3人）	（1小学校×3人）
	実　績	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人
中学校2名配置	目　標	（1中学校×2人）	（1中学校×2人）	（1中学校×2人）	（1中学校×2人）
	実　績	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人

達成状況説明：・村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
・令和6年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校　0ポイント以上	目　標	（　）	（0ポイント以上）	（0ポイント以上）	（0ポイント以上）	（　）
	実　績		5.8ポイント	2.6ポイント	3.6ポイント	
・令和6年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 中学校　0ポイント以上	目　標	（　）	（0ポイント以上）	（-0.6ポイント以上）	（0ポイント以上）	（　）
	実　績		-4.0ポイント	-7.0ポイント	-1.1ポイント	

進捗状況説明：・成果目標の設定を沖縄県の到達度調査を用いて設定している。小学校においては県との比較ポイントを0ポイント以上としており、目標を上回る3.6ポイントとなった。中学校においては目標を0ポイント以上としていたが、目標を達成できない状況であった。

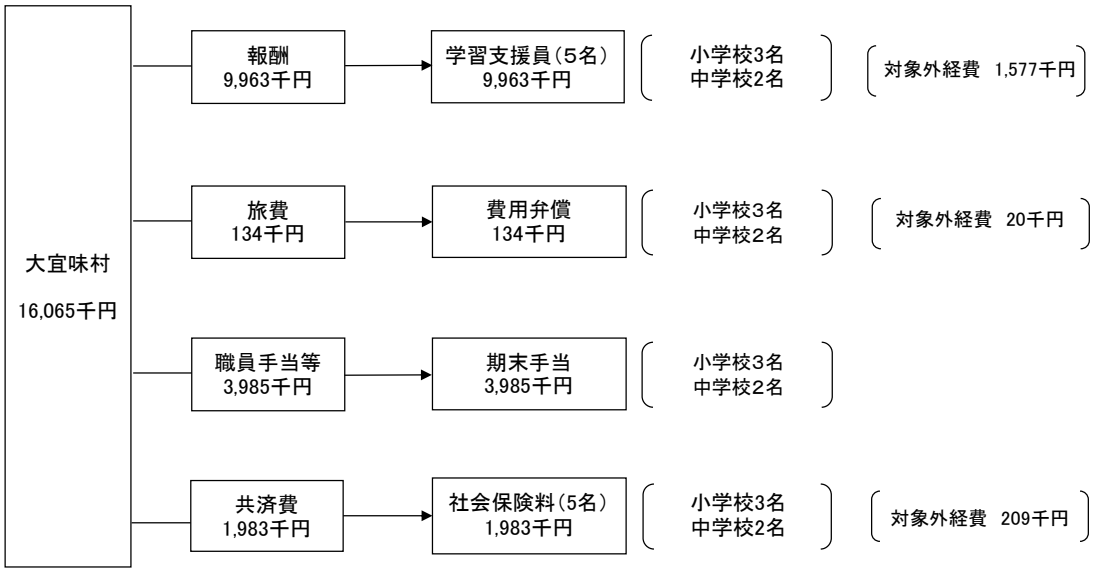
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学校においては今回も成果目標以上の沖縄県平均を3.6ポイント上回り効果が見られた ・中学校においては県平均との差は縮まってはいるが、依然-1.1ポイント下回った状況である。	・小学校は支援員配置による効果が現れているので、引き続き支援員を3名配置し、行き届いた環境の維持が求められる。 ・中学校においては沖縄県到達度調査において昨年に比べて差は縮まっているが、依然沖縄県平均を下回る結果となっている。

今後の取り組み方針

・小学校においては、成果目標の達成状況から見ても、支援による効果が大きいため今後も学力がしっかりと定着出来るよう支援員と共に協力しながら継続して学習支援に取り組んでいきたい。
・中学校においては今後、成果目標を達成するため、前回至らなかった点を支援員と共に協議しながら、学習支援の取組方について改善を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,871	16,065	12,852	3,213	1,806



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の報酬と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－②	地域支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ 「生きる力」を育む学校教育の充実
担当部課名	教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2, 359	2, 613	2, 755	2, 816	2, 811
	(b) 予算現額	2, 375	2, 613	2, 755	922	3, 200
	(c) 増減額 (b-a)	16	0	0	▲ 1,894	389
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	2,375	2,613	2,755	922	3,200
B. 執行済額		2158	2542	2722	992	3,126
うち交付金充当額		1726	2033	2178	793	2,501
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		90.9%	97.3%	98.8%	107.6%	97.7%

予算の状況の説明：当初予定通り支援員を1人確保し、予算の執行を97.7%実施出来た。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
地域支援員配置数 村内小中学校1人	目　標	（ 1小中学校×1人 ）	（ 1小中学校×1人 ）	（ 1小中学校×1人 ）	（ 1小中学校×1人 ）
	実　績	1小中学校×1人	1小中学校×1人	1小中学校×1人	1小中学校×1人
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・地域支援員を小中学校に1人配置しており、不登校気味生徒の登校支援や登校後の校内学習・活動を主にサポートすることができている。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
不登校出現率が全児童数の10%以下（小学校） 全児童数　134人	目　標	（　　）	（　100%　）	（　10%以下　）	（　10%以下　）	（　　）
	実　績		24%	0.7%	0%	
不登校出現率が全生徒数10%以下（中学校） 全生徒数　69人	目　標	（　　）	（　100%　）	（　10%以下　）	（　10%以下　）	（　　）
	実　績		24%	1.2%	2.9%	

進捗状況説明：年度途中まででではあるが、地域支援員の配置し、児童生徒への支援を実施することにより、小中学校それぞれの成果目標を達成することができた。
・小学校：不登校児童0名｛不登校気味の児童数0人（うち不登校児童数0人）｝
・中学校：不登校生徒2名｛不登校気味の生徒数2人（うち不登校生徒数2人）｝

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地域支援員だけでなく外部機関と定期的に情報交換を行うことで、児童生徒を取り巻く諸問題に早急に対処できる体制づくりはできた。 ・児童生徒間のトラブルや進学時の環境の変化への戸惑いから不登校気味になる場合もある。	・登校渋りの児童生徒においては、保護者が課題を抱えていることもあることから、地域支援員が家庭の巡回を行いつつ、関係機関に繋げていくことで課題解決を図る。

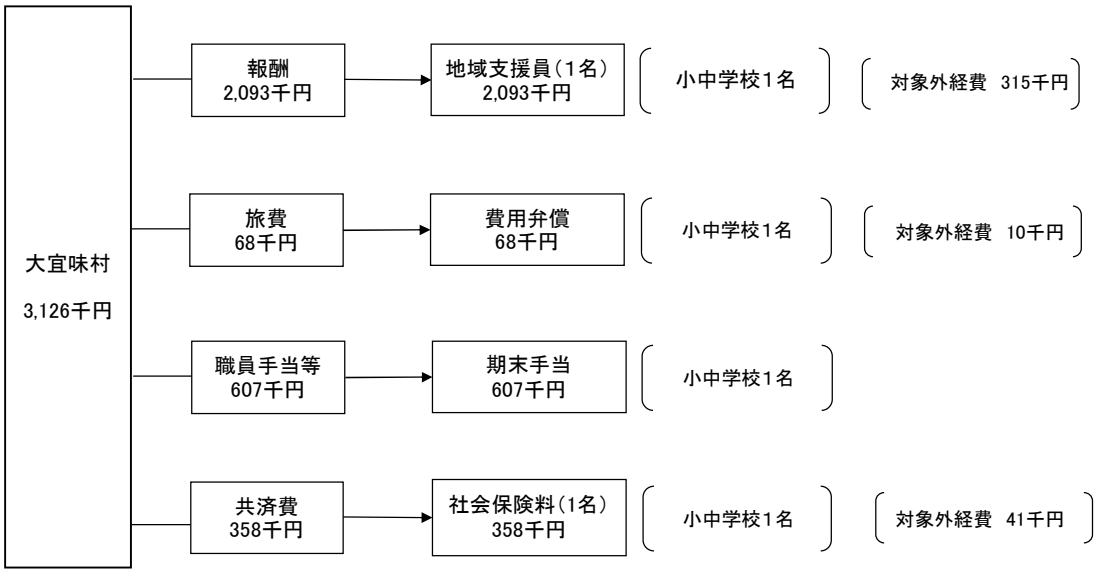
今後の取り組み方針

・今後も地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野との連携を図り、地域全体で児童生徒並びに保護者への支援体制を維持する。

・環境の変化が特に大きい小中学校進学時においては重点的なケアを行い、日々の児童生徒の交友関係にも気を配り、今後もきめ細かな支援を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,492	3,126	2,501	625	366



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の報酬と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	「ぶながやの里」地域人材育成支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(1)－ア 多様な学びの享受に向けた環境づくり
担当部課名	教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成25年度 ～ 令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－1

事業内容	各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への興味関心を培い、地域リーダーとなる人材育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3, 121	3, 359	3, 519	3, 561	3, 969
	(b) 予算現額	2, 691	3, 049	3, 519	3, 561	4, 411
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 430	▲ 310	0	0	442
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	2,691	3,049	3,519	3,561	4,411
	B. 執行済額	2, 537	2,923	2,990	3,182	4,137
	うち交付金充当額	2, 029	2,338	2,392	2,545	3,310
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	94.3%	95.9%	85.0%	89.4%	93.8%

予算の状況の説明：当初の事業計画・内容等に多少の変更はあったが、状況を確認しながら執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
わんぱく体験団　6回以上開催 生涯学習講座　6回以上開催	目　標	（10回）	（12回）	（12回）	（12回）
	実　績	9回	12回	12回	12回
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：当初計画していた講座の内容等に多少の変更はあったが、その状況に応じた内容で執行し、目標としていた講座回数を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
講座受講者数：240名以上	目　標	（　）	（240名）	（240名）	（240名）	（　）
	実　績		151名	186名	132名	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：令和5年5月に新型コロナウィルスが感染症5類へ引き下げられたことで、コロナ禍以前の活動を行うことができ、定員に達した講座もあったが想定していた受講人数に達していない講座も中にはあり、目標としていた受講者数に達することができなかった。

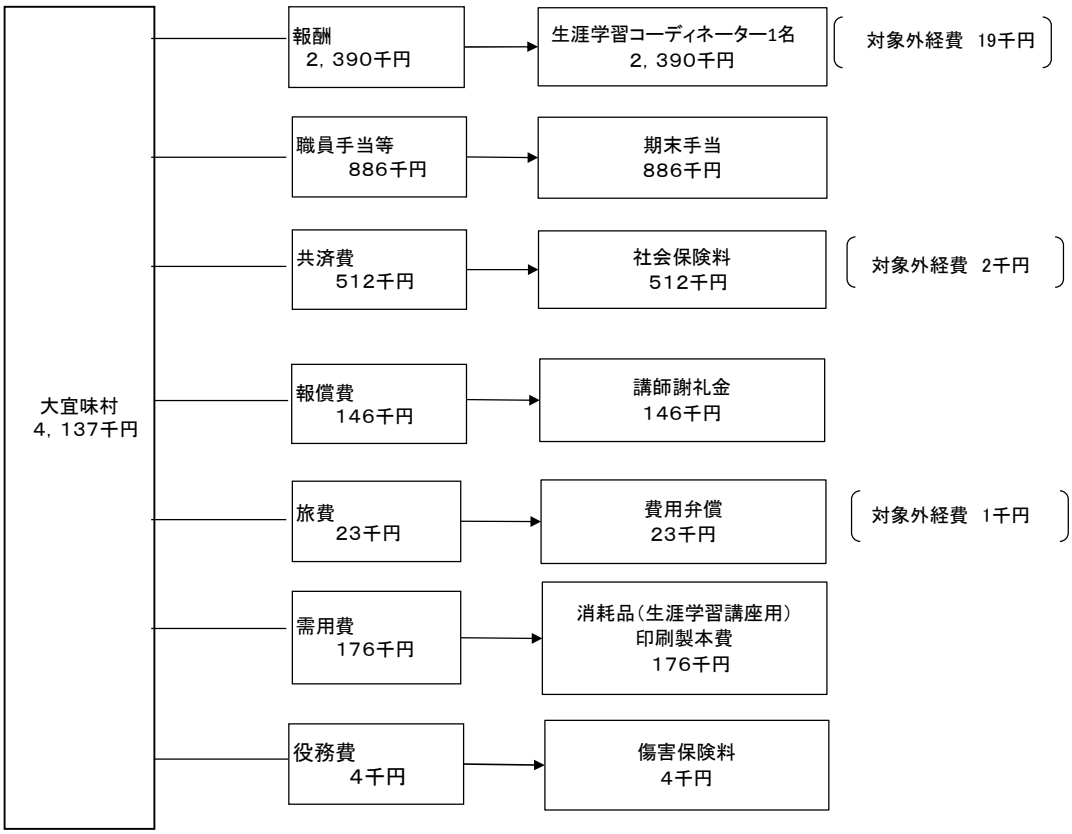
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	子どもを対象（親子での参加等）とした講座は定員に達しやすいのに対し、大人を対象とした講座は応募に伸び悩んでおり、目標未達成の要因と考えられる。	大人を対象とした講座の参加数が伸び悩んでいることから、これまでの講座内容を見直しつつ、地域の方から寄せられる開催してほしい講座の内容を検証し、新たな講座の企画が図れるよう検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

地域リーダとなる人材の育成を図るため、本村の自然環境を活用したミニキャンプや生き物の観察・習性を学ぶ講座、施設や特産物等を使用しての紙漉き・ものづくり講座など、これまで継続してきた講座内容の充実を図りつつ、住民のニーズに応じた新たな講座も計画し、受講者の興味関心を高める取り組みを実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,159	4,137	3,310	827	22



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、生涯学習コーディネーターは、村の配置要項に基づき採用しており、妥当である。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から、額の確定時に支出等に関する書類を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	児童生徒等県外派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ウ「生きる力」を育む学校教育の充実
担当部課名	教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成26年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

大宜味村に在住する児童・生徒（小学校・中学校・高校生）に対し、予選及び審査等の結果、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、代表として参加する際の派遣費用を補助する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1, 435	700	730	1, 157	1, 221
	(b) 予算現額	503	411	730	1, 157	751
	(c) 増減額 (b−a)	▲ 932	▲ 289	0	0	▲ 470
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	503	411	730	1,157	751
B.　執行済額		71	340	359	663	457
うち交付金充当額		57	272	287	287	365
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率 （%） (B/A)		14.1%	82.7%	49.2%	57.3%	60.9%

予算の状況の説明：・予算については活用見込みがあったため確保していたが、県大会での敗退等で派遣が叶わず不用額となった。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
児童生徒への県外派遣支援	目　標	（派遣費の一部を助成）	（派遣費の一部を助成）	（派遣費の一部を助成）	（派遣費の一部を助成）
	実　績	17　名	36　名	36　名	30　名
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

①令和6年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会　令和6年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会
②令和6年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会　令和6年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会
③第41回全日本小学生ソフトテニス選手権大会
④第9回全日本中学校女子軟式野球大会（SPトーナメント）
⑤第9回全日本中学校女子軟式野球大会（SPトーナメント）
⑥第18回西日本小学生ソフトテニス選手権大会
⑦第29回九州小学生ソフトテニス選手権大会
⑧第39回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会
⑨令和6年度第54回九州高等学校新人ソフトテニス競技大会
⑩第39回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会
⑪第37回九州地区中学校ソフトテニス選手権大会

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験をすることができたとの回答割合が80パーセント以上	目　標	（　）	（80%）	（80%）	（80%）	（　）
	実　績		100%	100%	100%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

令和6年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をすることができたのか」の設問について、「できた」との回答が100パーセントであり、目標を達成することができている。

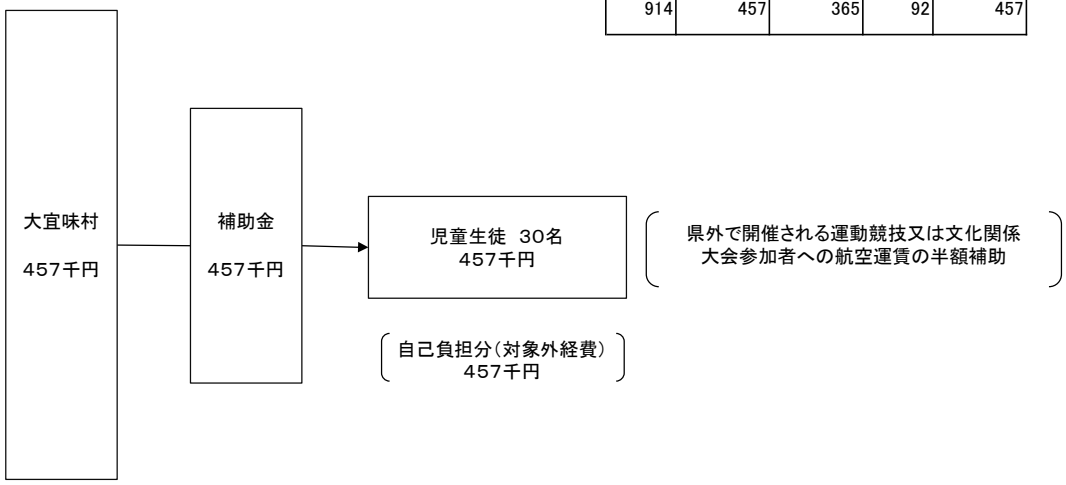
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県外派遣を実施することで、すべての保護者が「児童生徒が県内ではできない経験をするこができた」と回答しており、本事業の成果が表れている。 ・派遣した児童生徒の活動報告から満足度が高いことが窺われる。	・成果目標の達成については、日頃から児童生徒並びに指導者の能力や意識の高さが伺える。その為、多くの大会へ出場することができた事で、保護者の評価も高く改善の必要はないものと考えられる。

今後の取り組み方針

・今後もアンケートによる児童生徒がどのような経験ができたか、具体的に把握することに努め、年度初めに行う村内の小中高校への派遣事業の周知や、村教育委員会発刊の広報誌により全世帯への周知を行い、県外での大会派遣を引き続き支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
914	457	365	92	457



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、交付要綱に基づいて実施している。 ○予算規模については、予定していた派遣が全て実施されていた場合は適正な規模であったと考えている。 ○受益者との負担関係は対象費用の5割で妥当としている。 ○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	大宜味村海外短期留学派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－4－(2)－ア 沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成
担当部課名	教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	令和6年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－１

事業内容

村内の中高生を英語圏へ派遣し、異文化理解や国際理解、実践的なコミュニケーション能力を向上できる機会を創出する。
・派遣先・・米国ワシントン州
・滞在・・・大学キャンパス寮
・期間・・・約3週間（夏季休業期間）
・補助対象・・旅費

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,296				
	(b) 予算現額	2,613				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 683				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	2,613				
B. 執行済額		2,613				
うち交付金充当額		2,090				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初の事業計画・内容等から人数の変更はあったが、状況を確認しながら執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
村内の中高生の派遣数　4名	目　標	（　4名　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	3名			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：当初予定人数から留学プログラムの参加可能枠の都合により減となったが、中学生2名、高校生1名の海外短期留学派遣を実施することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（　年度）
派遣された中高生の保護者へのアンケートで、参加者が県内ではできない経験をすることができたとの回答割合が80パーセント以上	目　標	（　　）	（　80%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：令和6年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をすることができたのか」の設問について、「できた」との回答が100パーセントであり、目標を達成することができている。

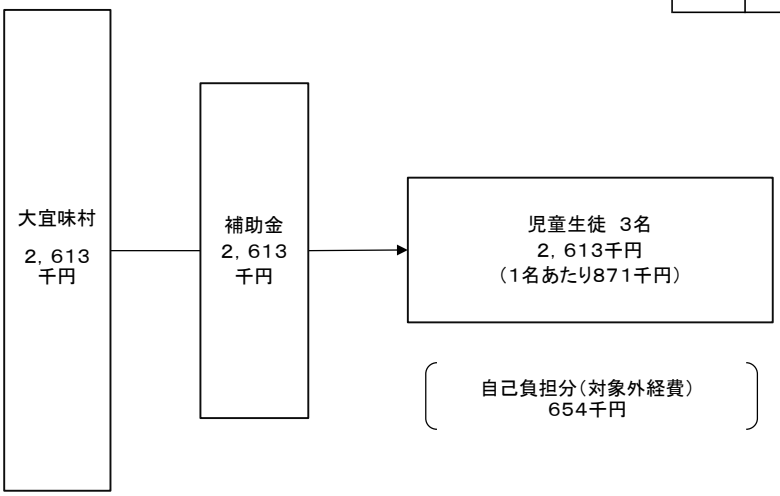
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・海外短期留学を実施することで、すべての保護者が「生徒が県外ではできない経験をするこができた」と回答しており、本事業の成果が表れている。 ・派遣した生徒の活動報告から英検2級の合格に繋がった生徒の報告も受けており、満足度が高いことが窺われる。	・生徒や保護者の振り返りを深めるため、アンケートにより本事業の在り方について検証する。

今後の取り組み方針

・アンケートによって、生徒がどのような経験ができたかを具体的に把握することに努め、年度初めに行う村内の中学校及び高校等への派遣事業の周知を行い、海外短期留学派遣を引き続き支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,267	2,613	2,090	523	654



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、交付要綱に基づいて実施している。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○受益者との負担関係は対象費用の8割で妥当としている。 ○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	